

2021年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

(別紙)参考資料:「2021年3月期 第3四半期連結業績説明資料」

2021年3月期 第3四半期 連結業績説明資料

IIJ

Internet Initiative Japan

株式会社インターネットイニシアティブ

証券コード: 3774

2021年2月8日

目次

I . 総括	P. 2
II . 連結業績	P. 3 ~ 16
III . その他参考情報	P. 17 ~ 20
IV . FY20業績見通し再上方修正	P. 21 ~ 22

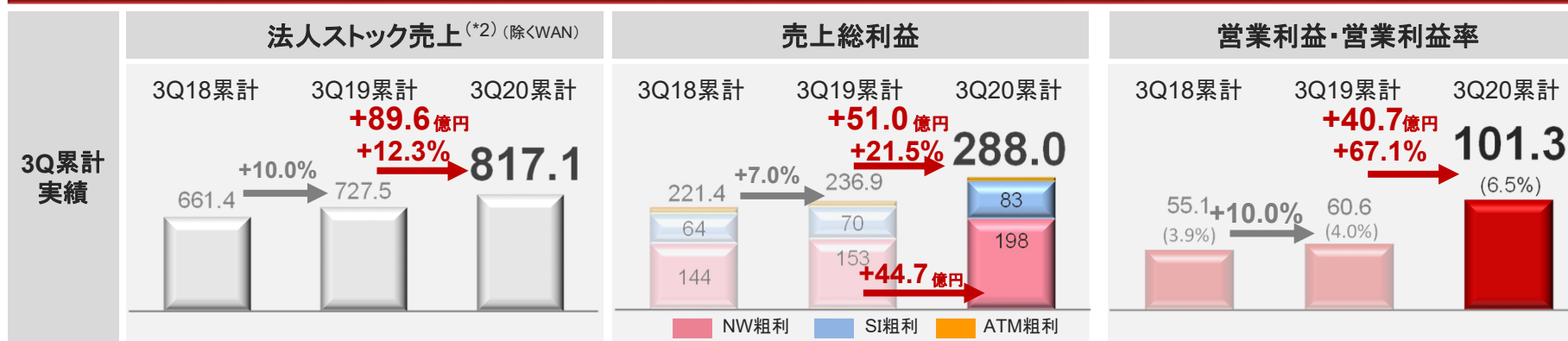
I. 総括

単位: 億円
% = 前年同期比

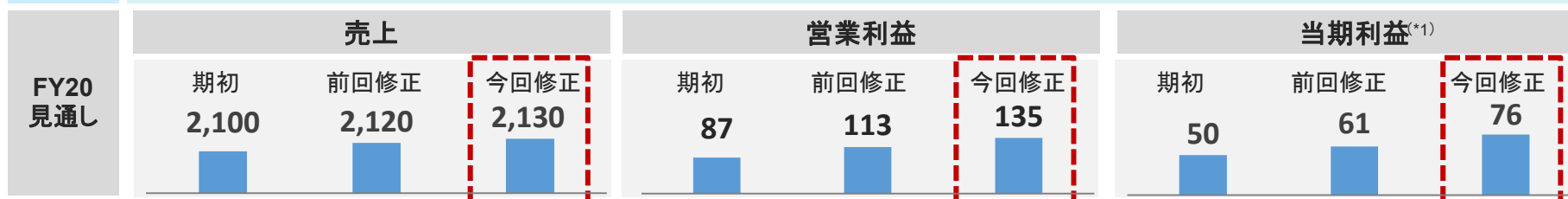
通期見通し再上方修正 需要動向・業績進捗を反映

加速する国内企業のIT利活用をネットワーク・SIの両輪ビジネスモデルで取り込み
先行開発のサービス群・ネットワーク運営で差別化 スケールメリットで構造的増益

3Q20累計: 売上 1,560.7億円 +3.6% 営業利益 101.3億円 +67.1% 当期利益^(*) 58.8億円 +75.2%



- | | | |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| NW
サービス | <p>◆ 既存優良顧客へ高付加価値サービスクロスセル・多様化する企業NWニーズに柔軟に適応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 主軸のIPサービス売上: 89.9億円 (+12.5%) ➢ セキュリティサービス売上: 136.1億円 (+12.4%) | <p>◆ 法人・IoT案件順次拡大でモバイルサービス売上継続伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ モバイル総売上: 354.0億円 (+2.9%) <ul style="list-style-type: none"> ・ うちIoT等法人モバイル売上: 55.1億円 (+26.7%) リモートメンテナンス等多様なネットワークカメラ需要旺盛 ➢ 個人向けモバイル新プラン 2月24日発表予定 |
| SI | ◆ サービスと組み合わせたNW関連SIで総合力発揮・粗利率Q毎向上: クラウド売上 192.9億円 (+11.7%) | |



(*) 当期利益は、親会社の所有者に帰属する利益を表示

(*) 法人ストック売上は、法人インターネット接続(除くMVNE)、アウトソーシング、SI運用保守の合計額を表示。個別要因のあったWAN売上は含まず

II - 1. 連結業績サマリー

単位: 億円

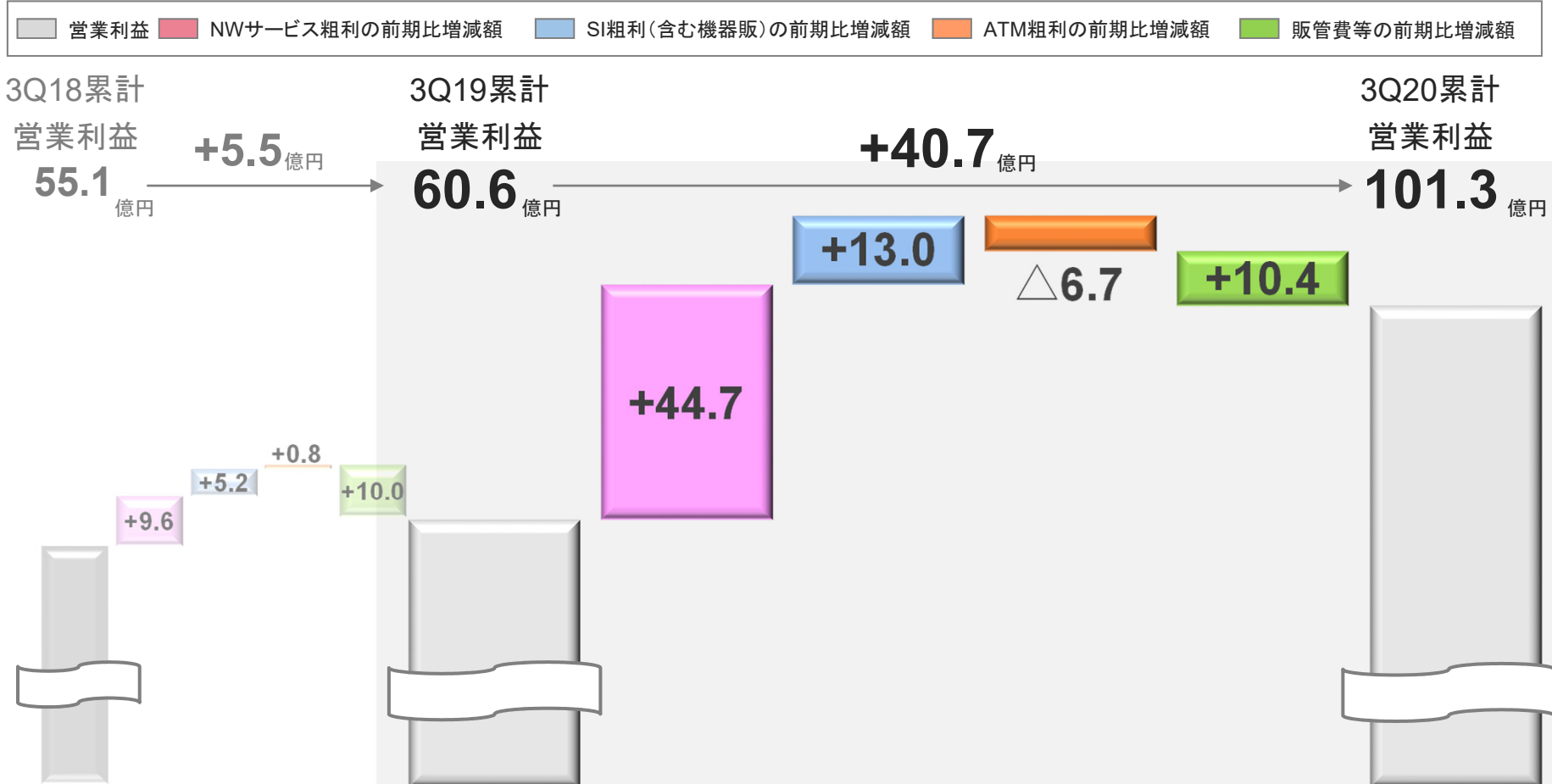
	売上高比		売上高比		売上高比		売上高比	
	3Q20累計 2020年4月～2020年12月	3Q19累計 2019年4月～2019年12月	前期比		FY20新見通し (2021年2月8日修正) 2020年4月～2021年3月	前期比		FY20旧見通し (2020年11月9日修正) 2020年4月～2021年3月
売上収益	1,560.7	1,506.9	+3.6%	+53.8	2,130	+4.2%	+85.3	2,120
売上原価	81.5% 1,272.7	84.3% 1,269.9	+0.2%	+2.8	81.6% 1,739	+1.2%	+20.2	82.9% 1,757
売上総利益	18.5% 288.0	15.7% 236.9	+21.5%	+51.0	18.4% 391	+20.0%	+65.1	17.1% 363
販売管理費等 ^(*1)	12.0% 186.7	11.7% 176.3	+5.9%	+10.4	12.0% 256	+5.1%	+12.3	11.8% 250
営業利益	6.5% 101.3	4.0% 60.6	+67.1%	+40.7	6.3% 135	+64.1%	+52.7	5.3% 113
税引前利益	5.9% 92.3	3.7% 56.1	+64.5%	+36.2	5.8% 123	+71.8%	+51.4	4.7% 100
当期利益 ^(*2)	3.8% 58.8	2.2% 33.5	+75.2%	+25.2	3.6% 76	+89.7%	+35.9	2.9% 61

(*1) 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)、その他収益、その他費用の合計額を記載

(*2) 当期利益は、親会社の所有者に帰属する利益を表示

Ⅱ-2. 営業利益増減分析

YoY = 前年同期比
単位: 億円

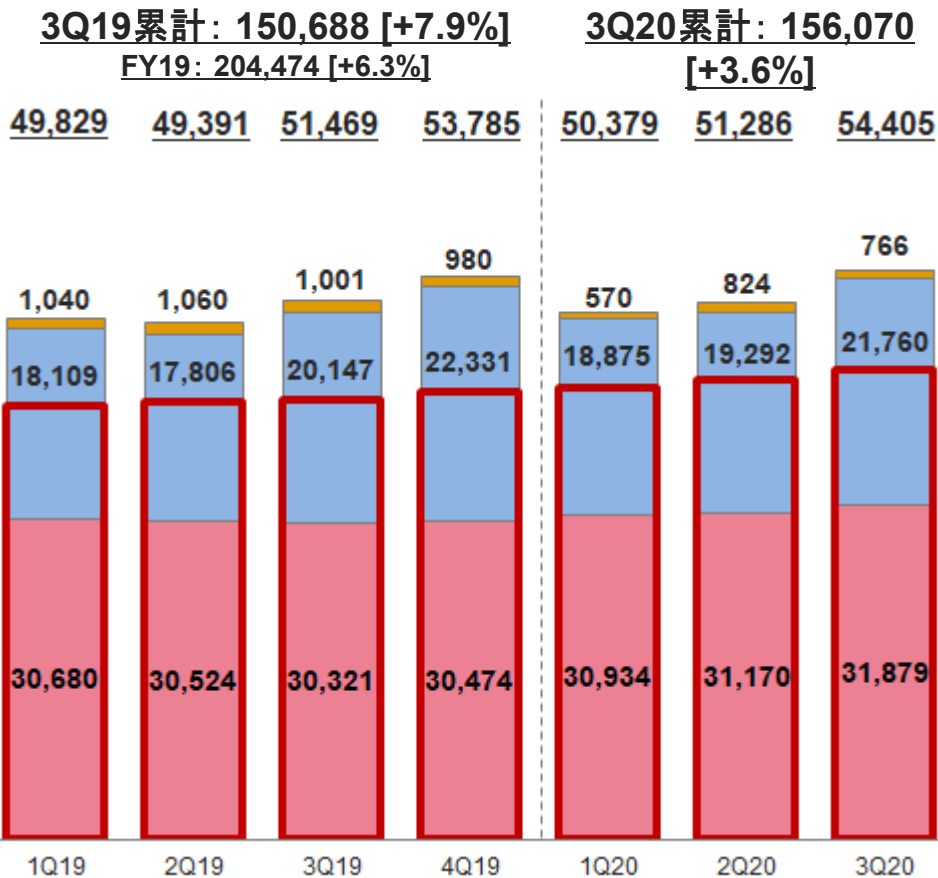
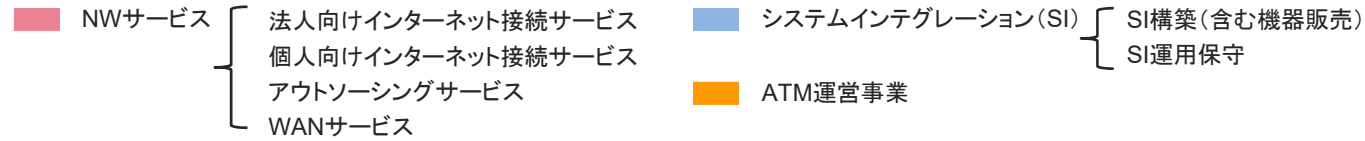


NWサービス粗利 44.7億円増加	SI粗利 13.0億円増加	ATM粗利 6.7億円減少	販管費等 10.4億円増加
法人NWサービス大幅増益のなかモバイル接続料低減(FY19実績単価確定で3Q20に7.0億円利益効果)もあり3Q20増益強	金融・公共等ネットワークインテグレーション需要旺盛で、SE高稼働維持し、粗利率四半期毎順次向上	1Q20はコロナ禍休店・外出自粛、下期は期中運営台数一定減少(約△170台/年・以降は台数維持見み)影響あり減益	恒常的販管費等は予算範囲内で推移のなか固定資産除却(3Q20累計 4.3億円)等の一時費用あり

• 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)、その他収益、その他費用の合計額を記載

II - 3. 売上収益(売上高)の推移

単位: 百万円
[], YoY = 前年同期比



総売上 +3.6%YoY

法人ストック売上大幅増収も以下の減収要素を内包

- WANサービス: $\Delta 10.5\%$ ・ $\Delta 2,190$ 百万円YoY
3Q19末収束の既存特定大口顧客モバイル移行の年度減収影響、3Q20は前四半期比+1.1億円と増収復帰
- ATM運営事業: $\Delta 30.4\%$ ・ $\Delta 942$ 百万円YoY
コロナ禍店舗休業・来店減少、ATM運営台数一定減少あり、ほぼ想定通りの進捗

一時売上^(*1)

3Q20累計: 21,687百万円・ $\Delta 1.8\%$ YoY

(3Q20累計売上構成比: 13.9%)

- 1Q $\Delta 9.6\%$ 、2Q $\Delta 0.5\%$ 、3Q +4.1%YoY
コロナ禍で上期売上スロースタート、ネットワークインテグレーション案件好調で下期復調

ストック売上^(*2)

3Q20累計: 132,224百万円・+5.4%YoY

(3Q20累計売上構成比: 84.7%)

法人ストック売上^(*3)

3Q20累計: 81,707百万円・+12.3%YoY

(3Q20累計売上構成比: 52.4%)

- 1Q +11.5%、2Q +12.3%、3Q +13.1%YoY

(*1) 一時売上は、主としてシステムが完成し引き渡すタイミングである検収時に一括計上される売上であり、SI構築売上(含む機器販売)を表示

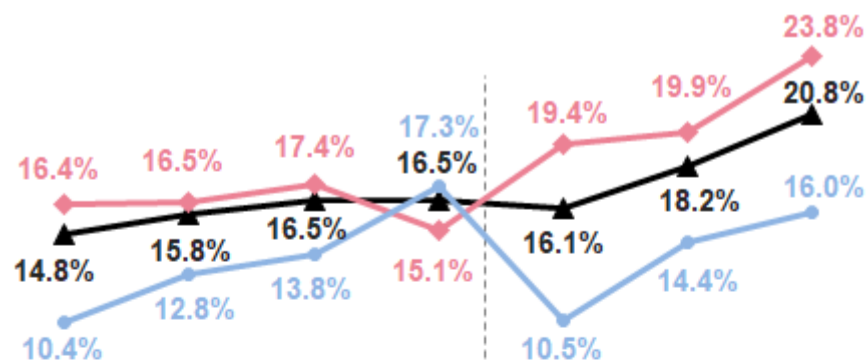
(*2) ストック売上は、継続提供にて月次計上される恒常的売上であり、法人・個人向けインターネット接続サービス、アウトソーシングサービス、WANサービス、SI運用保守の合計額を表示

(*3) 法人ストック売上は、法人インターネット接続(MVNE除く)、アウトソーシング、SI運用保守の合計額を表示。個別要因のあったWAN売上は含まず

II-4. 売上原価・売上総利益率の推移

単位: 百万円
[], YoY = 前年同期比

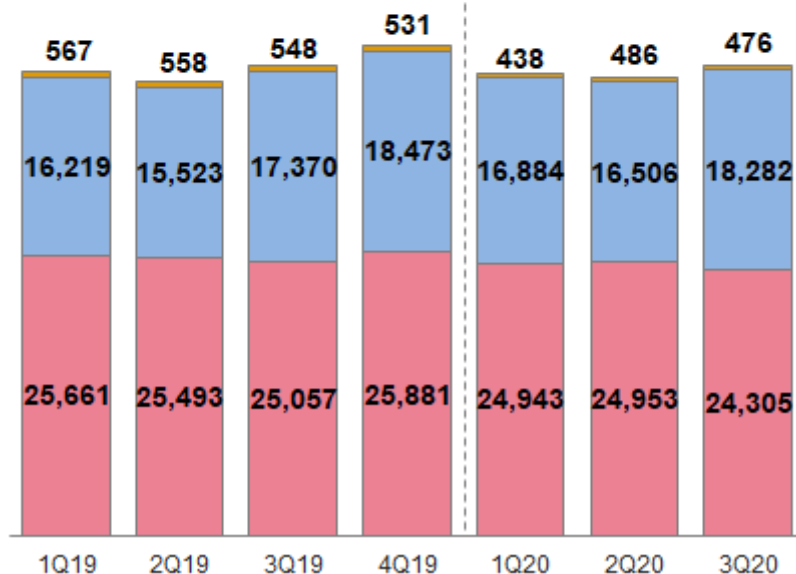
売上原価 ■ NWサービス ■ システムインテグレーション(SI) ■ ATM運営事業
売上総利益率 ◆ NWサービス ● システムインテグレーション(SI) ▲ 全体



3Q19累計: 126,994 [+8.1%]
FY19: 171,880 [+5.2%]

3Q20累計: 127,273
[+0.2%]

42,447 41,573 42,974 44,885 42,265 41,945 43,063



売上総利益

◆ 全体

- 3Q20累計: 28,797百万円(+21.5%・+5,103百万円YoY)
 - 1Q20: 8,113百万円(+9.9%・+731百万円YoY)
 - 2Q20: 9,342百万円(+19.5%・+1,524百万円YoY)
 - 3Q20: 11,342百万円(+33.5%・+2,848百万円YoY)

◆ NWサービス

- 1Q20: 5,991百万円(+19.4%・+972百万円YoY)
- 2Q20: 6,217百万円(+23.6%・+1,186百万円YoY)
- 3Q20: 7,574百万円(+43.9%・+2,311百万円YoY)
 - 3Q20にドコモ モバイル接続料(帯域単価) FY19実績確定による一時利益追加効果7.0億円あり

◆ SI

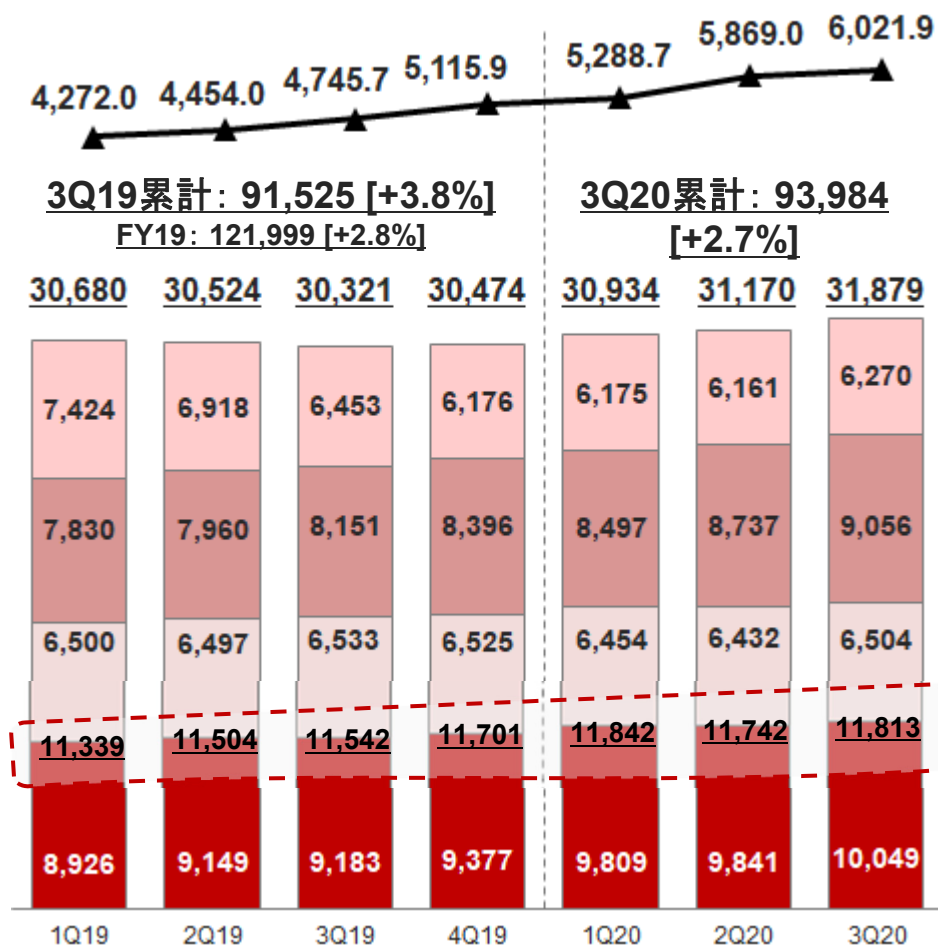
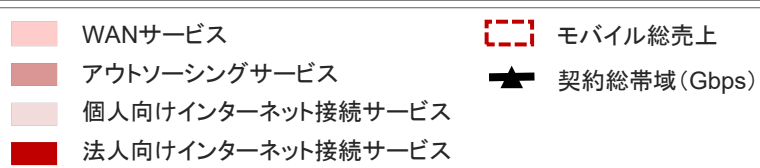
- 1Q20: 1,991百万円(+5.4%・+101百万円YoY)
- 2Q20: 2,786百万円(+22.0%・+502百万円YoY)
- 3Q20: 3,478百万円(+25.2%・+701百万円YoY)
 - 2Q・3Q粗利率はSE稼働率高推移・案件ミックスで向上(季節変動にて1Q売上低水準傾向で1Q粗利率低水準)

◆ ATM運営事業

- 1Q20: 131百万円(△72.2%・△342百万円YoY)
- 2Q20: 339百万円(△32.6%・△164百万円YoY)
- 3Q20: 290百万円(△36.2%・△164百万円YoY)
 - 1Q20はコロナ禍休店・外出自粛の影響強、2Q・3QはATM運営台数一定減少・外出低水準の影響あり

II-5. ネットワークサービス ①売上高の推移

単位: 百万円
[], YoY = 前年同期比
QoQ = 前四半期比



契約総帯域は、法人向けインターネット接続サービスのうち、IPサービス及びブロードバンド対応型サービス各々の契約数と契約帯域の乗算で算出

◆ 法人向けインターネット接続サービス

- 3Q20累計: 297.0億円・+9.0%YoY
 - ・ IP(法人向け専用線サービス):
 - ✓ 3Q20累計: 89.9億円・+12.5%YoY (1Q +9.4%、2Q +10.8%、3Q +17.2%YoY)
 - ・ IJモバイル(法人向けモバイル):
 - ✓ 3Q20累計: 180.3億円・+7.5%YoY
 - うちIoT等法人モバイル売上: 3Q20累計: 55.1億円・+26.7%YoY (1Q +18.2%、2Q +22.0%、3Q +39.9%YoY)
 - うちMVNE(他MVNOへのサービス販売)売上: 3Q20累計: 125.2億円・+0.7%YoY (1Q +7.5%、2Q +0.3%、3Q Δ5.4%YoY)

◆ 個人向けインターネット接続サービス(主に個人向けモバイル)

- 3Q20累計: 193.9億円・Δ0.7%YoY
競争環境継続

◆ アウトソーシングサービス(自社開発の多種多様なNWサービス群)

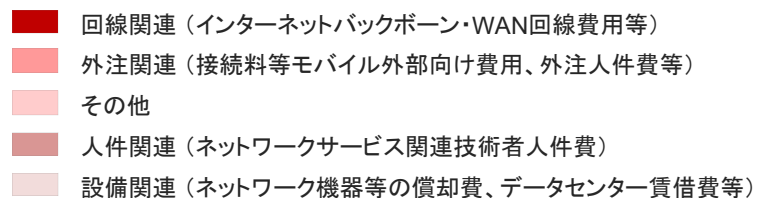
- 3Q20累計: 262.9億円・+9.8%YoY (1Q +8.5%、2Q +9.8%、3Q +11.1%YoY)
 - ・ うちセキュリティサービス売上: 3Q20累計: 136.1億円・+12.4%YoY (1Q +11.9%、2Q +13.1%、3Q +12.0%YoY)

◆ WANサービス

- 3Q20累計: 186.1億円・Δ10.5%YoY (1Q Δ16.8%、2Q Δ11.0%、3Q Δ2.8%YoY)
 - ・ 3Q19末収束の既存特定大口顧客の多拠点モバイル移行の年度影響で減収、3Q20 QoQでは+1.1億円増収

II-5. ネットワークサービス ②原価の推移

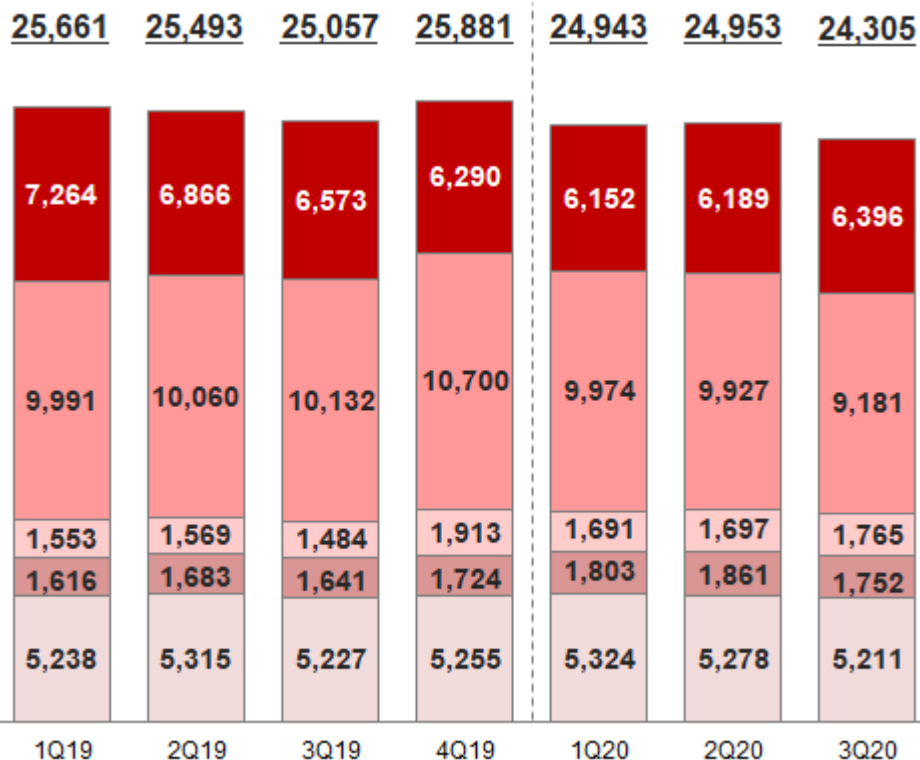
単位: 百万円
[], YoY = 前年同期比
QoQ = 前四半期比



- 回線関連費用はWAN売上減少に伴いYoY減少、QoQでは売上増に伴い増加、インターネットバックボーン調達コストはスケールメリット享受で安定推移
- 外注関連費用はモバイル接続料低減効果でYoY・QoQ減少(詳細以下参照)
- その他費用は消耗品規模等で四半期毎変動
- 設備関連は保守費等減少影響で減少

3Q19累計: 76,211 [+3.3%]
FY19: 102,092 [+0.8%]

3Q20累計: 74,201
[△2.6%]



MVNOに係るモバイル接続料取り扱い

(MNOの提供するモバイルインフラコスト)

- FY20よりモバイル接続料(帯域単価)の算出方法はMNOの将来原価等の予測値で接続料を算定する将来原価方式へ変更(*)
(*) 予測値と実績値に差異ある場合は翌年度に差異補正
- FY20利用分ドコモ モバイル接続料は将来原価方式提示値 FY18ドコモ実績に基づく帯域単価比16.0%減で1Q20より費用処理
- その内数であるFY19利用分ドコモ モバイル接続料(FY19ドコモ実績に基づく帯域単価)は21年1月に前年単価比13.4%減と改定。その他含み期中想定との一部差分7.0億円利益が3Q20に一括計上
- FY19・FY18利用分ドコモ モバイル接続料(FY18ドコモ実績に基づく帯域単価)は20年3月に前年単価比6.0%減と改定。FY19期中想定8%減との差分3.5億円(*)の追加費用を4Q19に一括計上 (*) 通信料差分・KDDI差分分含む

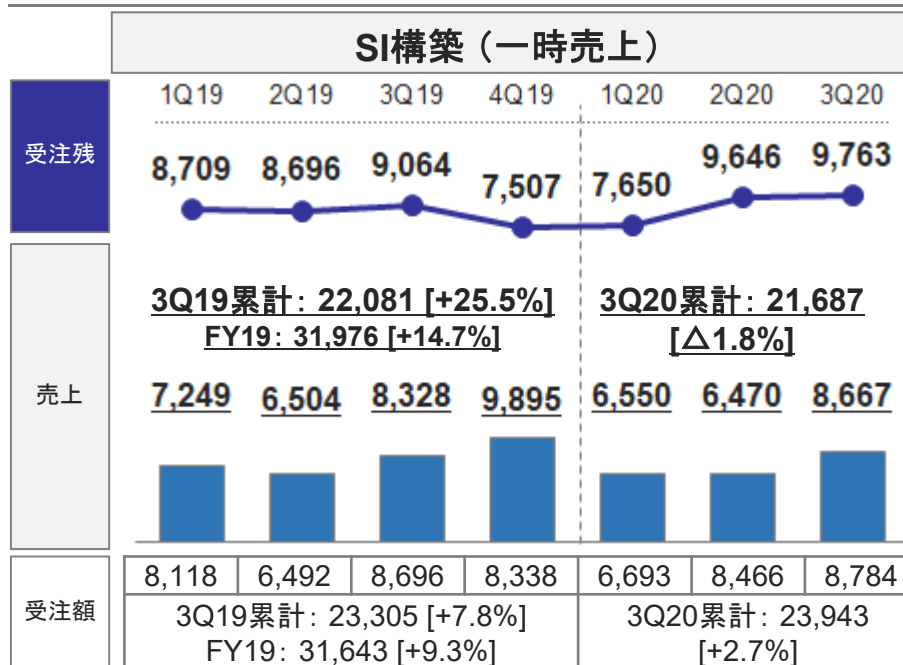
- MNO (Mobile Network Operator): モバイル通信キャリアを指す

II - 6. システムインテグレーション(SI) ①売上高の推移

単位: 百万円

[], YoY = 前年同期比

QoQ = 前四半期比

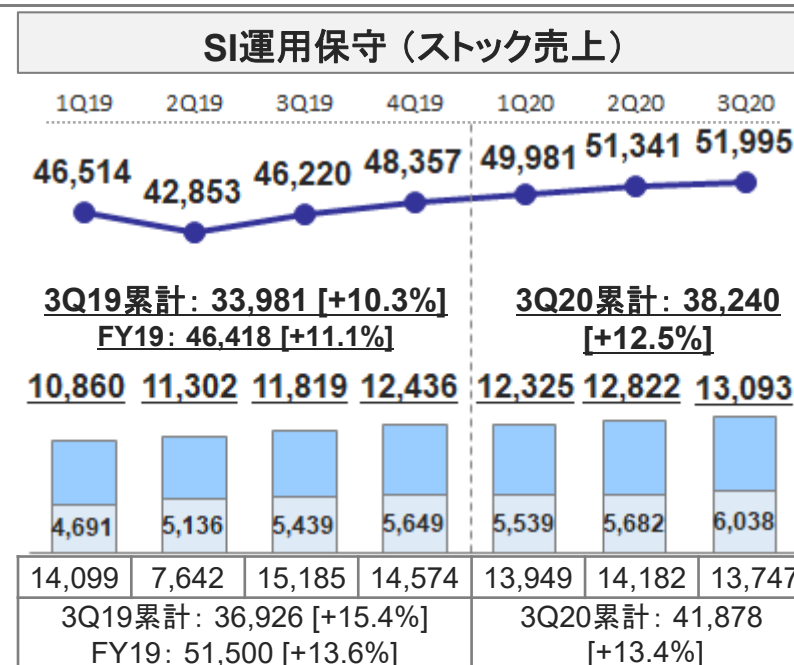


・ SI構築の受注残・売上・受注額は機器販売を含む

- 受注 3Q20累計 +2.7%YoY ネットワークインテグレーション案件活況 (1Q △17.6%、2Q +30.4%、3Q +1.0%YoY)
 - ・ 1Q20企業活動低調で弱含んだ分2Q20受注強含み
 - ・ 1Q19は20億円/件の個別大口案件受注有り
- 3Q20受注大型案件
 - ・ Microsoft 365導入等オフィスIT案件多数
 - ・ GIGA スクール案件 複数
 - ・ 民間・公共機関向け在宅勤務用システム基盤 等

◆ 国際事業

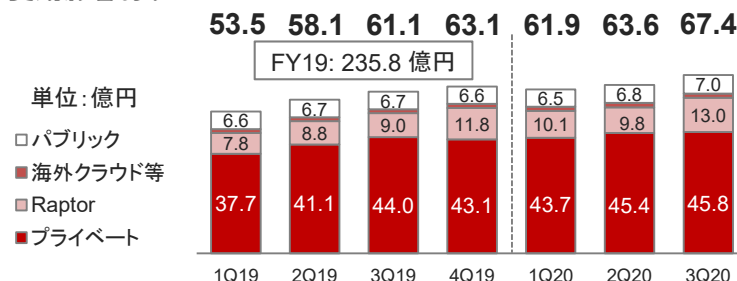
- 3Q20累計: 売上 59.9億円、営業利益 2.2億円
 - ・ SIは欧米コロナ影響顕著



・ グラフ内数値は、クラウド売上のうちSI運用保守に計上されている分を表示

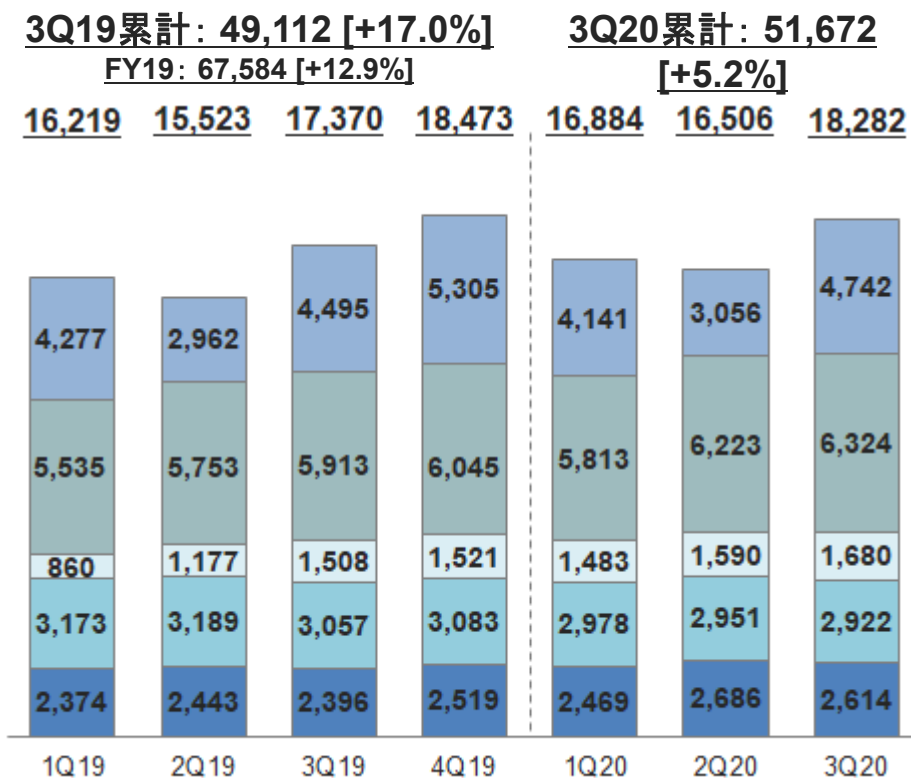
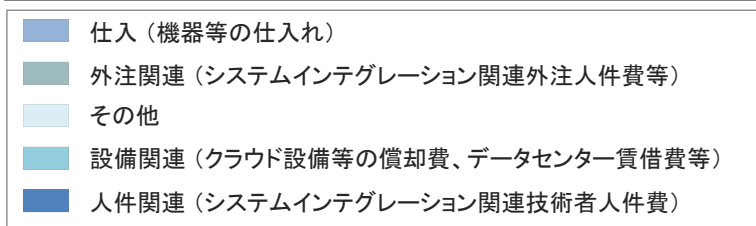
◆ クラウド売上

- 3Q20売上区分: 89.6%SI運用保守、10.4%アウトソーシング
- 3Q20累計売上: 192.9億円 (+11.7%YoY) (1Q +15.6%、2Q +9.5%、3Q +10.3%YoY)
- マルチクラウド他売上好調でFY20売上目標 245億円(旧サービス設備閉鎖・設備移行要因で強い増収見込まず)超過見込み
- Raptor(為替取引ASPシステム)売上: FX取引量見合いの売上変動影響あり



Ⅱ - 6. システムインテグレーション(SI) ②原価の推移

単位: 百万円
[], YoY = 前年同期比



- 3Q20は案件ミックス(仕入・構築売上比率低水準)で粗利良好、SE高稼働継続で粗利率Q毎向上
 - ・ 1Q20 10.5%、2Q20 14.4%、3Q20 16.0%
- その他費用はマルチクラウド需要増に伴うライセンス費用等で増加

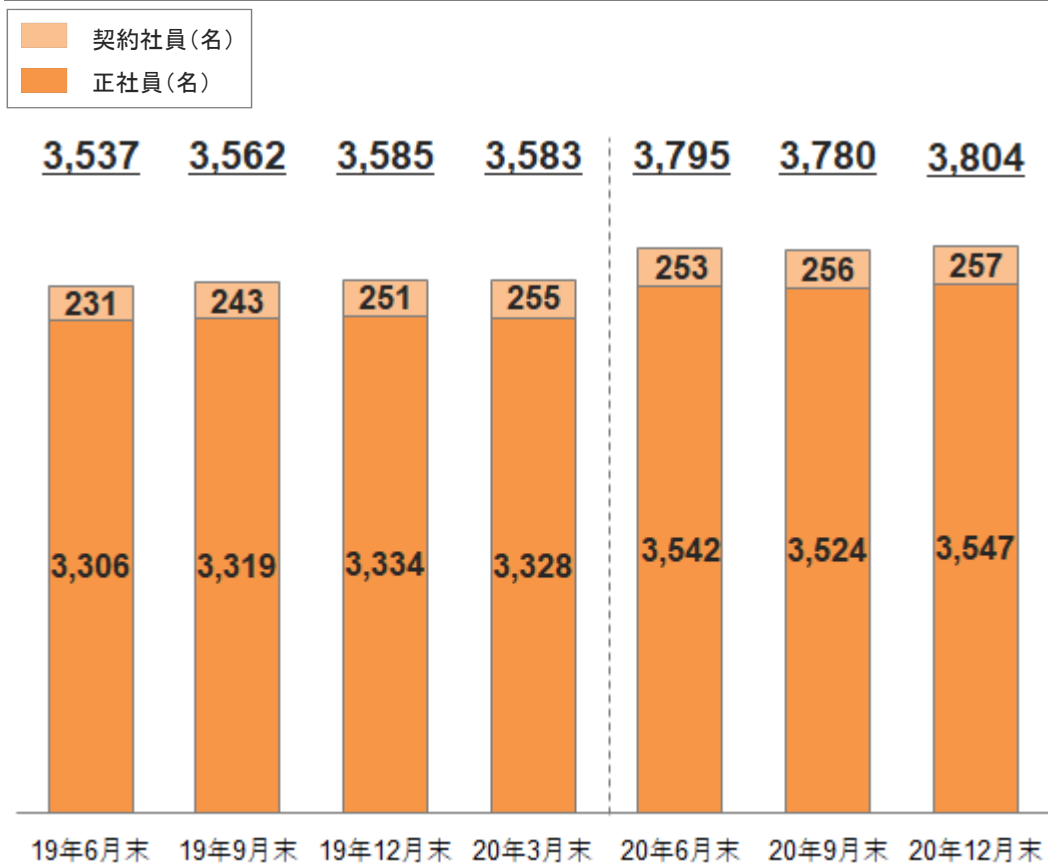
SI関連外注人員数推移

(単位: 名)

1Q19末	2Q19末	3Q19末	4Q19末	1Q20末	2Q20末	3Q20末
1,075	1,104	1,065	1,123	1,094	1,181	1,236

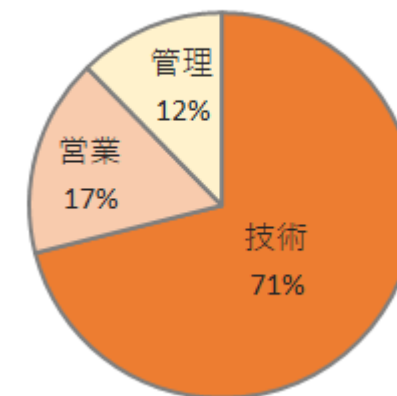
II - 7. 連結従業員数の推移

YoY = 前年同期比



- 20年4月入社新卒社員数: 210名
(19年4月: 171名、18年4月: 175名)
- 21年4月入社予定新卒社員数: 191名
- FY20従業員純増予算: 290名規模
(FY19実績: 230名)

分野別人員構成



- 業績に応じた賞与追加引当等で
2Q20人件関連費用は1Q20比増加

人件関連費用

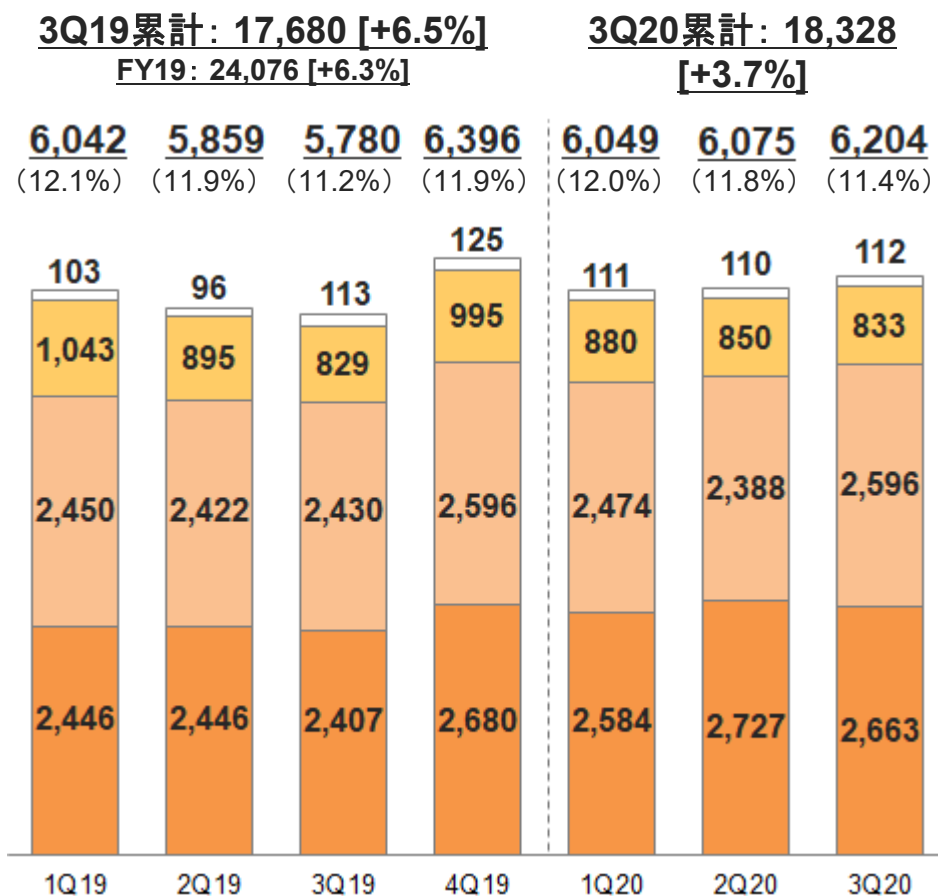
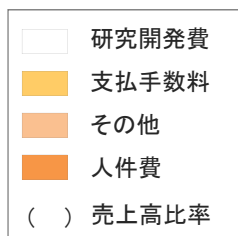
単位: 百万円、() = 売上高比率

1Q19	2Q19	3Q19	4Q19	1Q20	2Q20	3Q20
6,402 (12.8%)	6,573 (13.3%)	6,443 (12.5%)	6,911 (12.8%)	6,835 (13.6%)	7,281 (14.2%)	7,032 (12.9%)
3Q19累計: 19,418 (12.9%)+8.8%YoY FY19: 26,329 (12.9%)+10.0%YoY				3Q20累計: 21,148 (13.6%) +8.9%YoY		

・ FY19人件関連費用は報酬体系改定で一時的に大幅増加

II - 8. 販売管理費等の推移

単位: 百万円
[], YoY = 前年同期比

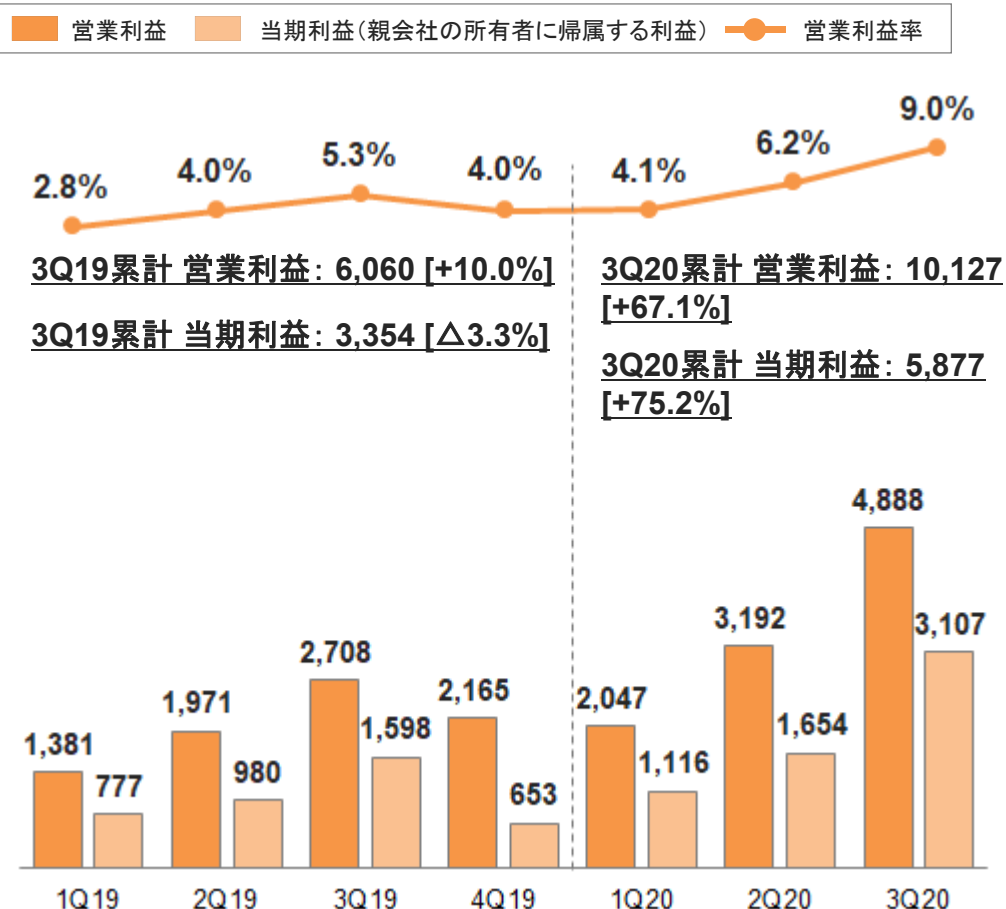


- 販売管理費・研究開発費は予算内で推移
 - ・ その他: 国内外旅費・広告宣伝費等は働き方変革・コストコントロール等で低水準
- 左記以外に、その他の収益・費用(純額)で3.4億円の費用(3Q20累計)
 - ・ 3Q20累計その他費用 固定資産除却等で4.3億円(3Q19累計 1.2億円)

・ 本スライドでの 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)の合計額を記載、その他収益・その他費用は含まず

II - 9. 利益の推移

単位: 百万円
[], YoY = 前年同期比



3Q19累計 営業利益: 6,060 [+10.0%]

3Q19累計 当期利益: 3,354 [△3.3%]

3Q20累計 営業利益: 10,127 [+67.1%]

3Q20累計 当期利益: 5,877 [+75.2%]

4Q19営業利益: モバイル接続料追加費用3.5億円、除却3.6億円、賞与追加引当2.5億円等一時費用あり

1Q19	2Q19	3Q19	4Q19	1Q20	2Q20	3Q20	
△124	△51	92	△177	△74	△286	186	金融損益(純額)
112	△245	△234	△439	△279	△135	△313	持分法投資損益
△543	△642	△922	△858	△572	△1,084	△1,625	法人所得税費用
△49	△53	△46	△39	△6	△34	△29	控除- 非支配持分に帰属する利益

◆ 営業利益

- 3Q20累計: 101.3億円・+67.1%YoY
(1Q +48.2%、2Q +61.9%、3Q +80.5%YoY)

◆ 税引前利益

- 3Q20累計: 92.3億円・+64.5%YoY
(1Q +23.8%、2Q +65.5%、3Q +85.5%YoY)
 - 支払利息: 440百万円
 - ファンド評価益: 192百万円
 - 受取配当金: 83百万円
 - 受取利息: 34百万円
 - 為替差損: 49百万円
 - DeCurret損益持分: 損失785百万円
(出資比率: 41.6%)
 - 損失額の推移: 4Q19 403百万円、1Q20 306百万円、2Q20 273百万円、3Q20 207百万円
 - 期初見込み議決権比率30.0%で持分法損取込み想定のところ1Q20より出資比率41.6%で取込みとの会計処理変更
 - JOCNDN損益持分: 2Q20に黒字転換し3Q20累計利益15百万円(出資比率: 16.8%)
 - コンテンツトラフィック増によりCDN利用継続増加

◆ 当期利益

- 3Q20累計: 58.8億円・+75.2%YoY
(1Q +43.8%、2Q +68.8%、3Q +94.4%YoY)

II - 10. 連結バランスシートのサマリー

単位: 百万円

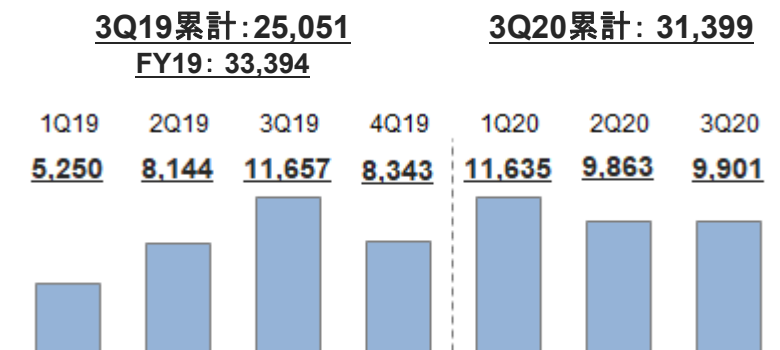
	20年3月末	20年12月末	増減
現金及び現金同等物	38,672	41,970	+3,299
営業債権	32,585	29,822	△2,763
棚卸資産	2,476	2,346	△131
前払費用(流動・非流動)	17,475	19,426	+1,951
有形固定資産	17,400	16,553	△847
使用権資産	50,560	46,420	△4,140
のれん・無形資産	24,363	23,354	△1,009
持分法で会計処理されている投資	4,827	6,708	+1,881
その他の投資	9,187	11,592	+2,406
その他	8,979	11,917	+2,938
資産合計:	<u>206,524</u>	<u>210,108</u>	<u>+3,584</u>
営業債務及びその他の債務	18,288	20,271	+1,984
借入金(流動・非流動)	27,750	25,560	△2,190
契約負債・繰延収益(流動・非流動)	12,457	13,852	+1,395
未払法人所得税	2,284	1,698	△585
退職給付に係る負債	3,985	4,251	+266
その他の金融負債(流動・非流動)	54,151	49,876	△4,275
その他	7,553	8,427	+875
負債合計:	<u>126,467</u>	<u>123,936</u>	<u>△2,531</u>
資本金	25,531	25,531	-
資本剰余金	36,271	36,372	+101
利益剰余金	16,501	21,096	+4,595
その他の資本の構成要素	2,670	4,054	+1,384
自己株式	△1,897	△1,875	+22
親会社所有者帰属持分合計:	<u>79,076</u>	<u>85,178</u>	<u>+6,102</u>

- 親会社所有者帰属持分比率: 20年3月末 38.3%、20年12月末 40.5%

Ⅱ-11. 連結キャッシュ・フロー

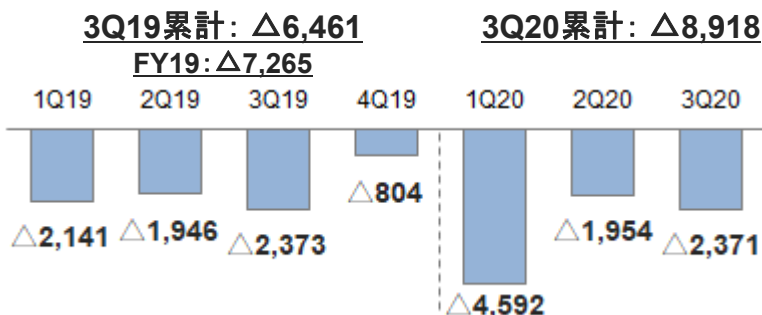
単位:百万円

営業キャッシュ・フロー



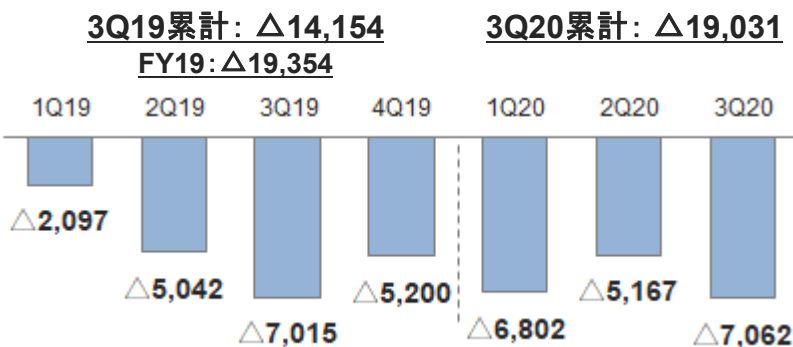
	主内訳	前年同期比
税引前利益	9,227	+3,617
減価償却費及び償却費	21,094	△262
持分法による投資損益	727	+360
営業資産及び負債の増減	3,526	+3,212
法人所得税支払い	△3,928	△1,326

投資キャッシュ・フロー



	主内訳	前年同期比
有形固定資産の取得	△4,555	+1,667
有形固定資産売却による収入	1,859	+85
無形資産(ソフトウェア等)の取得	△3,722	+295
持分法適用関連会社への出資	△2,754	△2,036

財務キャッシュ・フロー

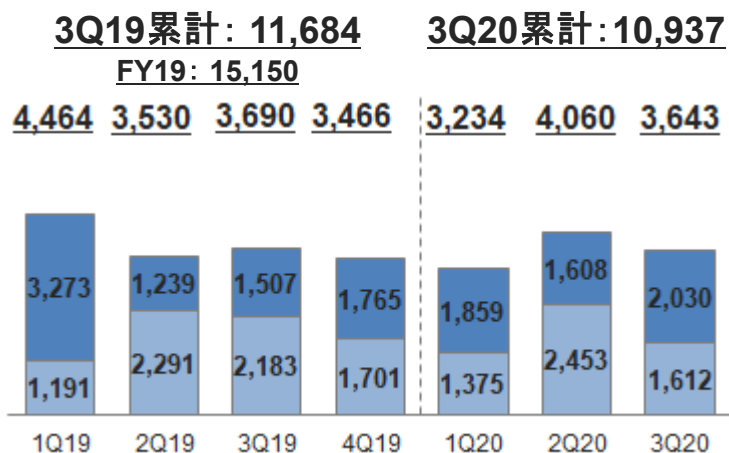
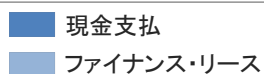


	主内訳	前年同期比
借入金の返済	△2,190	△3,190
その他金融負債の支払い	△15,252	+104
配当金の支払い	△1,533	△316

II - 12. その他の財務データ

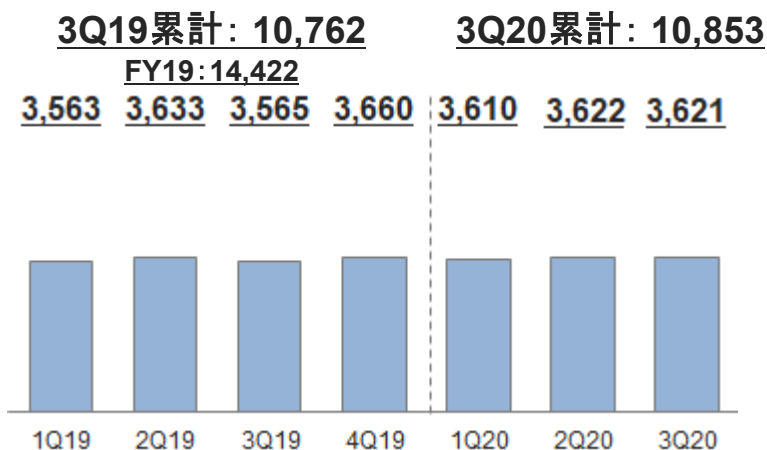
単位: 百万円

設備投資額 (CAPEX)

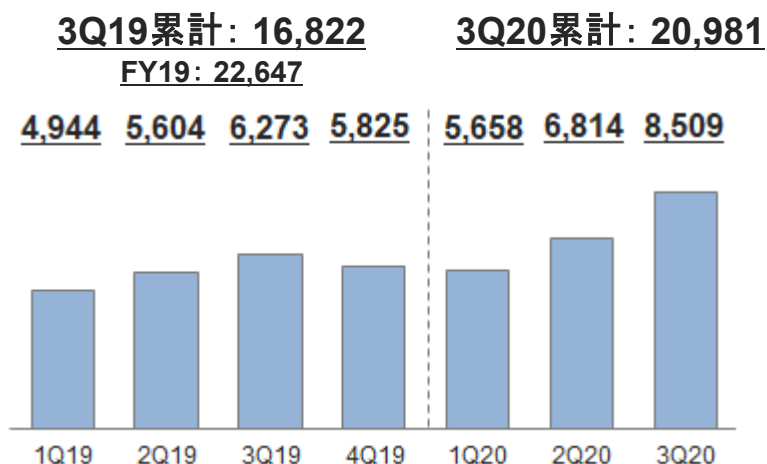


- FY20 CAPEXは白井DCモジュール追加約30億円で160億円前後の期初計画

設備投資償却額



Adjusted EBITDA

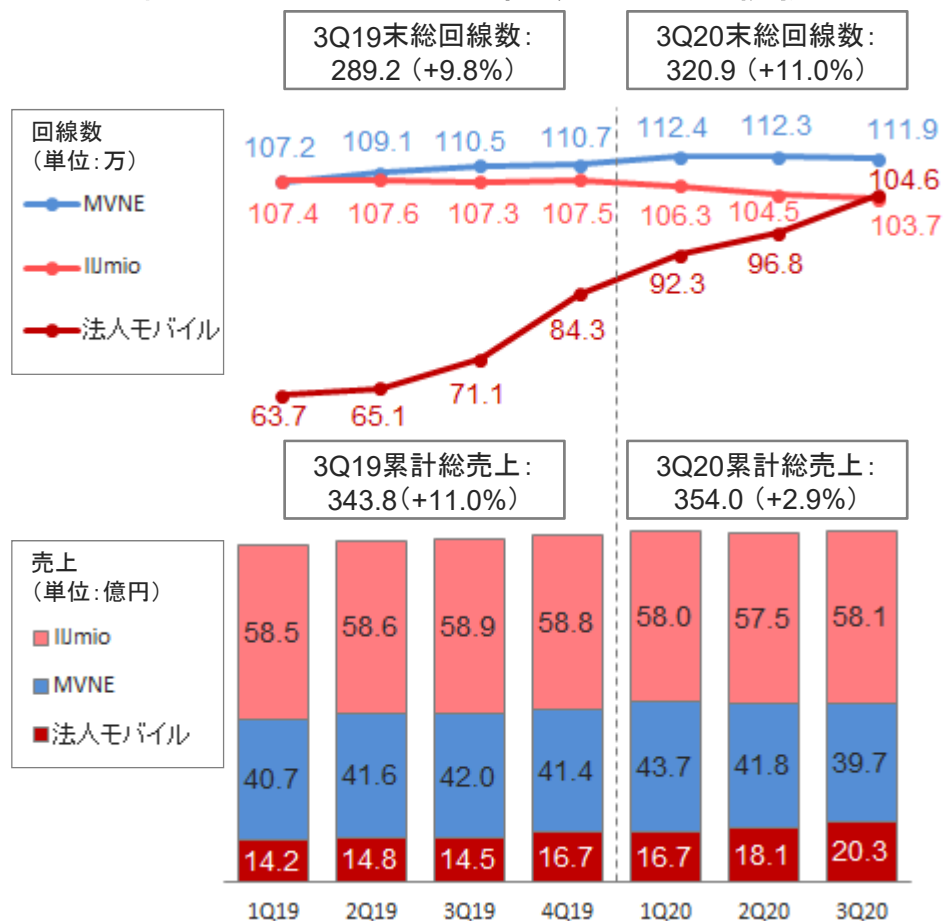


- 設備投資額は、有形固定資産及び無形固定資産の現金支出による取得額及びファイナンス・リースによる取得額よりセール・アンド・リースバック取引による重複、少額端末等で投資との性質を持たない資産の取得額を除外して算定
- 設備投資償却額は、減価償却費及び償却費のうち、設備投資 (CAPEX) による資産の償却額を表しており設備投資との性質をもたない資産 (オペレーティングリースの使用権資産、少額端末、顧客関係等) の償却額を除外して算定
- Adjusted EBITDAは、営業利益と設備投資償却額の合計額を記載

Ⅲ-1. 各サービス・事業の進捗： モバイル・IoT

YoY、% = 前年同期比

法人牽引でモバイル総回線数・売上継続拡大



・ MVNE: IJモバイルMVNOプラットフォームサービス(他MVNOへのサービス販売)
・ 法人モバイル: IJモバイルからMVNE除外し算出

◆ IT利活用本格化による法人IoT取引の増加を期待

- 多種多様なトラフィックを共通のモバイルインフラに効率良く收容することで、インフラ稼働率向上・モバイルサービス収益性向上を展望

■ 法人モバイル ネットワークカメラ・デバイス接続 需要活況 工場/農業/HACCP等様々なIoT案件を着実に推進

- 3Q20累計法人モバイル売上: 55.1億円・+26.7%YoY (1Q +18.2%、2Q +22.0%、3Q +39.9%YoY)

多岐に亘るネットワークカメラ接続案件の拡がり

- 店舗マーケティング
- 受付システム
- 動態調査
- 設備遠隔メンテナンス
- 河川監視
- 鉄道・高速道路監視
- ドライブレコーダー
- 等

- フルMVNO機能でIoT案件獲得に強み発揮

- ・ 3Q20累計フルMVNO売上: 14.6億円・+31.1%YoY (1Q 4.0億円、2Q 4.6億円、3Q 6.1億円)
- ・ 3Q20フルMVNO売上区分: 96% 法人モバイル、4% IJmio

■ MVNE: 大口MVNE顧客被買収での他社移行影響内包

- 3Q20累計MVNE売上: 125.2億円・+0.7%YoY (1Q +7.5%、2Q +0.3%、3Q Δ5.4%YoY)
- 3Q20末MVNE顧客数: 158社(+3社YoY)

■ IJmio (個人): 競争環境継続 個人向けモバイル 新プラン 2月24日発表予定

- 3Q20累計個人売上: 173.6億円・Δ1.4%YoY (1Q Δ1.0%、2Q Δ1.8%、3Q Δ1.4%YoY)

Ⅲ-2. 各サービス・事業の進捗： モバイル接続料

◆ モバイル接続料(帯域単価)の低減率推移・見込み

適用年度	FY17	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22
基準年度	FY16MNO原価・需要他実績に基づき算定	FY17MNO原価・需要他実績に基づき算定	FY18MNO原価・需要他実績に基づき算定	FY20・21・22 MNO原価・需要他見込みに基づき接続料見込み算定、2020年3月に開示		
算定方式	実績原価方式			将来原価方式		
ドコモ	18.2%減	5.0%減	6.0%減	16.0%減 ^(*) 内、FY19ドコモ実績単価 13.4%減確定(21年1月)	19.8%減	15.9%減
KDDI	10.8%減	20.2%減	13.3%減	38.0%減 ^(*) 内、FY19分KDDI実績単価 20.4%減確定(21年1月)	15.4%減	8.6%減

(*)FY20低減率： FY20単価(FY20MNO見込単価)÷FY18MNO実績単価

◆ 将来原価方式とは

- 過去実績を遡り接続料算定との従来方式から改訂し、将来原価等の予測値で接続料を算定する仕組み
- FY21・FY22・FY23モバイル接続料(帯域単価)は2021年2～3月頃にMNOより提示予定**

◆ 業績見通しの不確実性軽減

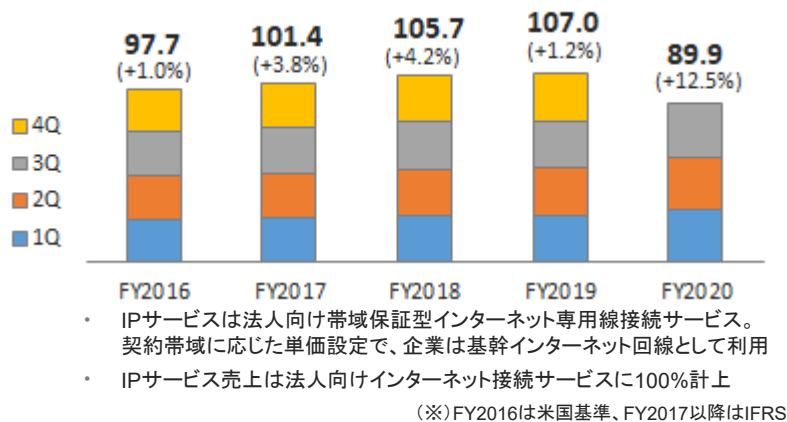
- MNO提示の接続料予測値で期初から費用処理、予測値と実績値に差異ある場合は翌年度に差異補正

◆ 算定計算要領は従来から変更なし：(データ通信原価＋利潤)÷需要

Ⅲ-3. 各サービス・事業の進捗： 法人ネットワークサービス (%) = 前年同期比 単位：億円

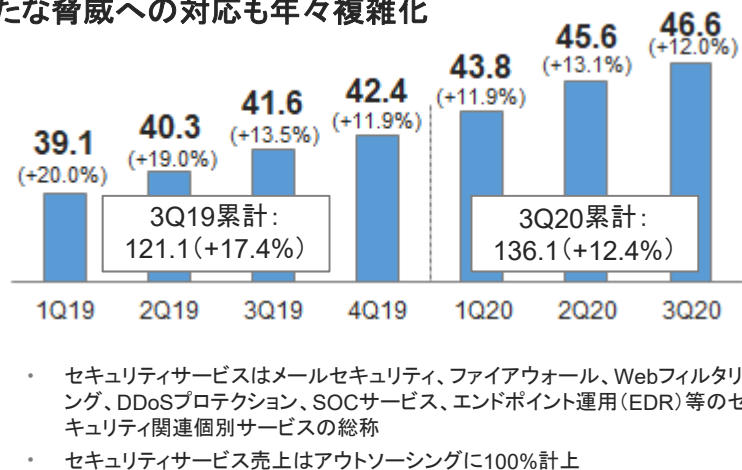
IPサービス 増収率加速

◆ IT利用増による社内外インターネットトラフィック増加で
企業利用の広帯域化継続



セキュリティサービス売上継続拡大

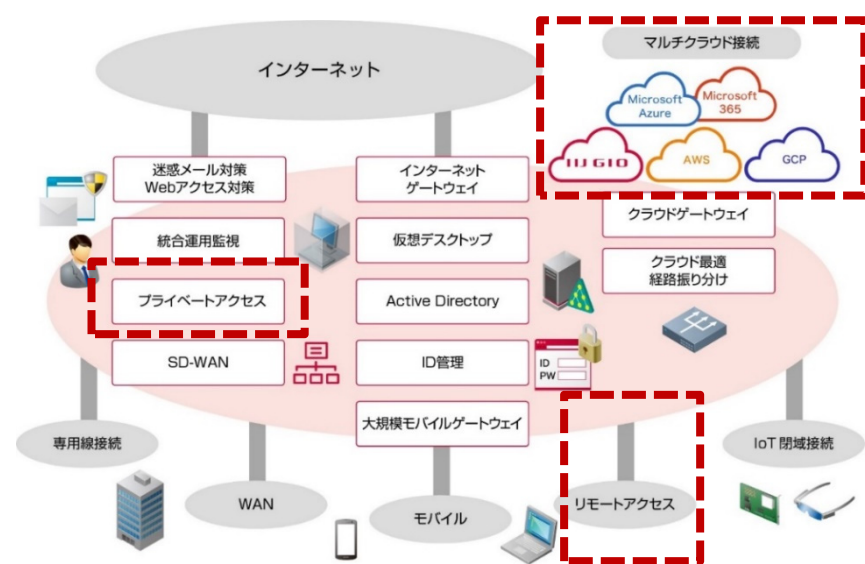
◆ IT利用増によるセキュリティ対策必要性の拡大
新たな脅威への対応も年々複雑化



◆ 総セキュリティ事業規模(サービス+SI)

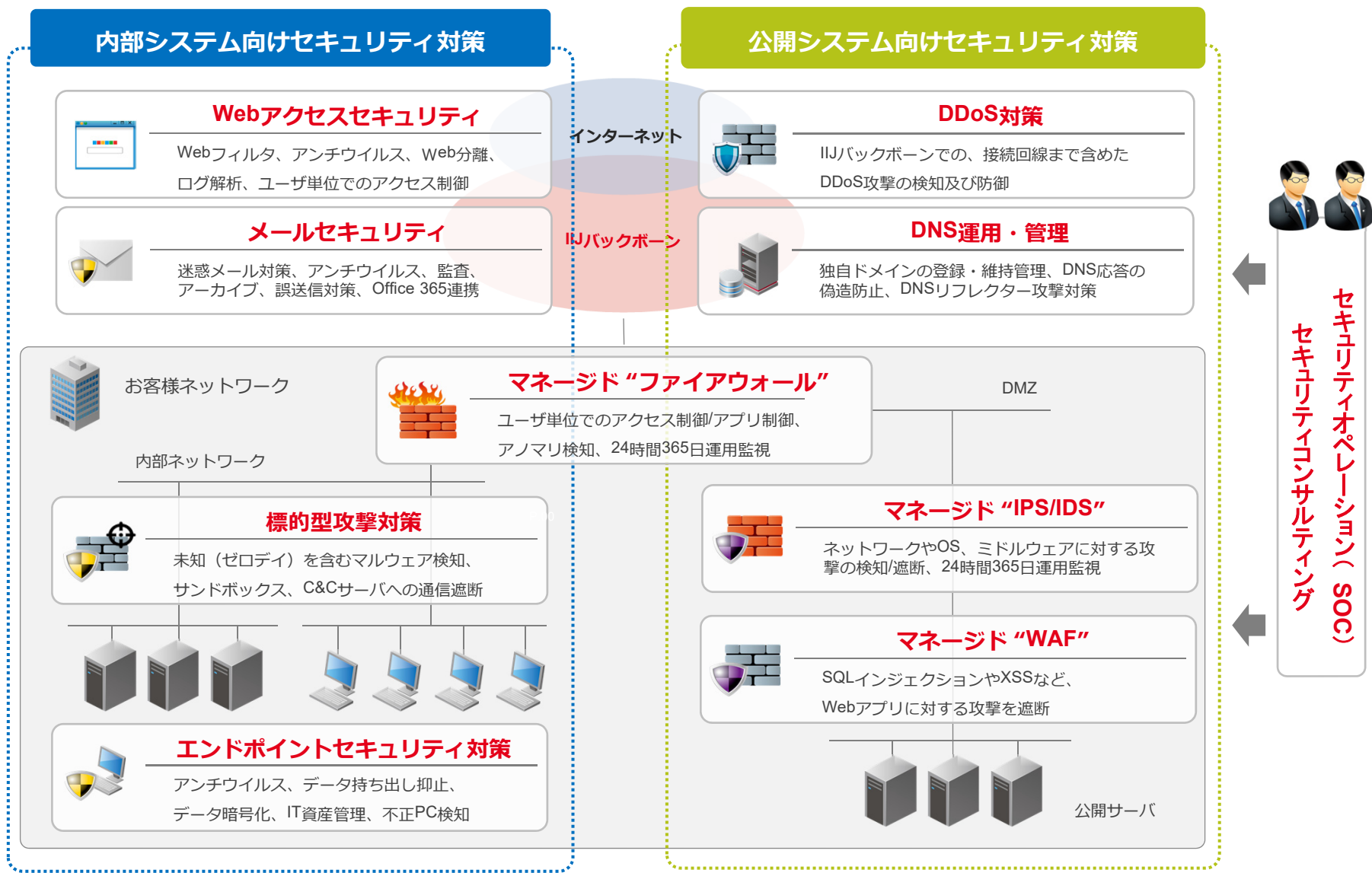
➢ 3Q20累計 157.6億円(+12.0%)

多様な自社開発ネットワークサービス群の複合提供



- ◆ 企業のクラウド利用拡大のなか、クラウドネットワークへの多様・高品質な接続構成を提供する「IJJプライベートアクセスサービス」へのニーズ拡大
- ◆ マルチクラウド普及のなか、他社クラウドサービスへの閉域接続を実現する「IJJクラウドエクスチェンジサービス」継続積み上げ
- ◆ 快適・セキュアなVPN環境を実現する「IJJフレックスモバイルサービス」への需要旺盛
 - 2021年1月末接続デバイス数 10万超(2020年2月末2万規模)、新規及び既存からの追加デバイス需要旺盛

Ⅲ- 4. 豊富な自社開発セキュリティサービスラインアップ



IV- 1. FY2020連結業績見通し(変更日:2月8日)

単位:億円
YoY = 前年同期比

	売上高比	売上高比	前期比		売上高比	売上高比
	FY20新見通し (2021年2月9日修正) 2020年4月~2021年3月	FY19実績 2019年4月~2020年3月			FY20旧見通し (2020年11月9日修正) 2020年4月~2020年12月	3Q20累計実績 2020年4月~2020年12月
売上収益	2,130	2,044.7	+4.2%	+85.3	2,120	1,560.7
売上原価	81.6%	84.1%	+1.2%	+20.2	82.9%	81.5%
売上総利益	391	325.9	+20.0%	+65.1	363	288.0
販売管理費等 ^(*)	18.4%	15.9%			17.1%	18.5%
販売管理費等 ^(*)	256	243.7	+5.1%	+12.3	250	186.7
営業利益	12.0%	11.9%			11.8%	12.0%
営業利益	135	82.3	+64.1%	+52.7	113	101.3
持分法投資損益	6.3%	4.0%			5.3%	6.5%
持分法投資損益	△9	△8.1	-	△0.9	△9	△7.3
税引前利益	5.8%	3.5%			4.7%	5.9%
税引前利益	123	71.6	+71.8%	+51.4	100	92.3
当期利益 ^(**)	3.6%	2.0%			2.9%	3.8%
当期利益 ^(**)	76	40.1	+89.7%	+35.9	61	58.8

※配当は、2020年11月9日発表時より変更なし(期末 10.25円/株、通期 20.50円/株) 通期決算時の当期利益確定に併せて修正検討

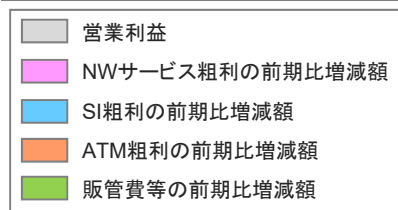
(*) 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)、その他収益、その他費用の合計額を記載

(**) 当期利益は、親会社の所有者に帰属する利益を表示

(**) 1株当たり配当金は、分割後ベースで記載

IV- 2. FY2020営業利益見通し(変更日:2月8日)

YoY = 前年同期比
単位:億円



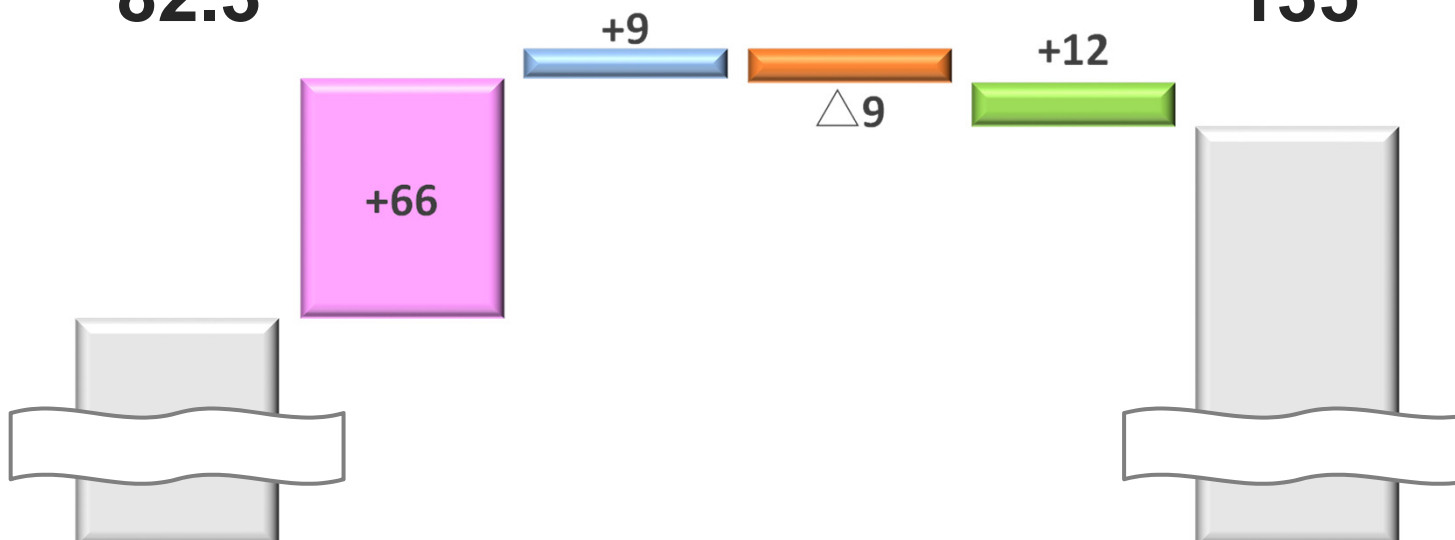
FY19実績
営業利益

82.3

+52.7 億円

FY20修正後見通し
営業利益

135



NWサービス粗利	SI粗利	ATM粗利	販管費等
2Q20時想定(+39億円 YoY)より法人NW積み上げ効果で17~18億円増加程度見込み、モバイル接続料効果を加算	若干保守的に2Q20時想定(+9億円YoY)を踏襲	3Q20累計実績を鑑み 2Q20時想定(△11億円 YoY)より減益規模縮小見込み	3Q20累計実績を鑑み 4Q20賞与等一時費用も見込み2Q20時想定(+6億円YoY)より増加見込み

- 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)、その他収益、その他費用の合計額を記載



日本のインターネットは1992年、IIJとともにはじまりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。

事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。